



育もう

みたけを想う心、育んでいこう



子どもを
連れていける施設が
たくさんあります



願興寺には
国の重要文化財が
たくさん
あるんですよ



このまちでは
みんなが
あいさつをして
いるよ

いっぱい
ありすぎて、
書ききれない！



広見線の元気は
まちの元気！！



まちには
元気な高齢者が
いっぱいです



知らなきゃ損！ みたけ自慢 MAP

御嵩町の概要

役場の所在地：
岐阜県可児郡御嵩町御嵩 1239 番地 1

●鉄道でお越しの方

- ・名鉄広見線「御嵩」駅から徒歩 5 分
- ・JR 中央線「土岐市」駅から車で約 20 分

●車でお越しの方

- ・名古屋 IC から小牧 JT を経由し、約 40 分

みんなが笑顔になるまちに！



笑顔で 育ちあうまち



町民一人ひとりが「協働のまちづくり」に対する意識の向上を図っていくことが大切です。生涯にわたる学びの機会を保障し、町民一人ひとりが互いに学び合い、みんなが笑顔で育ちあっていくようなまちをめざします。

① 中学生と乳幼児の遊びを通したふれあい ② 地域の歴史文化を学ぶ東濃高校ふるさと学習 ③ 生涯学習講座を楽しむ参加者たち

ステキな環境を未来に残そう！



良好な環境を 誇りとするまち



緑豊かな自然や街道文化を持ち、環境モデル都市として低炭素社会の実現に向けた先駆的な取り組みを進めています。環境未来都市選定を視野に入れ、良好な環境に誇りを持ちながら、しっかりと次世代に引き継ぐまちをめざします。

① 自然と調和した暮らしの実現 ② 住民が主体となっているゴミ・資源の分別収集 ③ 環境について学ぶため中学生が先進地を見学

第5次総合計画

つな あ 輝 く ま ち

御嵩町は、
みんなと一緒に
作っていくんだよ！



御嵩町では、人と人の絆、地域とのつながりをまちの財産として育てていくとともに、地域の資源、まちの個性に磨きをかけ、人もの、情報の交流を育むことで、一人ひとりが活躍し、生きがいと希望にみちた魅力あるまちをめざします。

御嵩町ならではの暮らしを!



暮らしてみたく なるまち



自然環境、歴史・文化、住環境、広域交通網などの資源を活用しつつ、暮らしの場としての安全性、利便性、快適性の向上はもとより、「御嵩らしさ」の魅力度を高めることによって、暮らしてみたくなるまちをめざします。

① 保健師による相談事業 ② イベント用にラッピングされたクリスマスバス ③ 移りゆく四季の風景を楽しむ

多くのみたけファンをつくろう!



多くの人 が行き交うまち



地域の豊富な資源について学び、価値を見つけ出し、まちづくりに活かしていくことにより町民同士のふれあいはもとより、多くのみたけファンと出会い交流し、まち全体に多くの人が集まるにぎわいのまちをめざします。

① 中山道往来でにぎわう参加者たち ② 外務省ツアーでのおもてなし ③ 田植えや稲刈りを体験する「田んぼの学校」

安心・安全に暮らせるまちに!



みんなが 支えあうまち



向こう三軒両隣のお付き合いを基本とした地域コミュニティを育み、また世代を超えた交流を活発化させることで、人と人、地域と地域のつながりを大切にし、ふれあい・支えあいにより、安全・安心に暮らせるまちをめざします。

① 幅広い年齢層の人々が参加する防災訓練 ② 高齢者生きたい支援センター「あつと訪夢」 ③ スポーツを楽しむ子どもたち



鬼の首塚



美濃の土岐・可児の間の
志月（寂月・次月）に鬼

ヶ窟というところがありました。そこは山がとても険しく巨石が積み重なり、水の勢いも非常に強い場所。そんな岩の重なつた洞穴に、怪しげな二人の賊が住んでいました。

名は「関の太郎」。非常な乱暴者で、民家を襲って食物や宝物を奪っていき、手向かう者をもごたらしく殺したり傷つけたりすることも日常茶飯事でした。その上、美しい女を見れば無理無体に連れていくこともありました。

加えて、どういうことか、関の太郎は怪しい術を使つて空中でも自由に飛べる力を持っていました。そのため人々は、「関の太郎」という名前を聞いただけで怯えて顔色が悪くなり、毎月開かれていた市場にも暗い影を落としていました。

この様子を見ていた町の人々は非常に悲しがり、地頭職の文告盛康に退治するよう頼みました。その頃、盛康は京都にいたため、家来の中で武勇の誉れ高い4人に退治に向かわせました。



4人は交替で町を警備し、関の太郎を取り押さえようとしたが、神出鬼没の上、力も強い。とても手が付けられないほどでしたが、薬師如来の力を借りてようやく討ち取ることができました。

討ち取った首を首桶に入れ、京都にいる主人・盛康のところへ運ぼうとしたが、急に首桶が重くなり動かなくなりました。仕方がないので道の側に据えて置くと、鬼になった首が桶を破って飛び出し、檜の根元に落ちたため、そこに埋めて塚を作り、鬼の首塚としました。

御嵩物語

耳神さま



あるところに松右衛門という働き者の百姓が、母と妻とともに住んでいました。普段は百姓の仕事をしていましたが、冬の時期は腕の良い大工として働いていました。

ある日、松右衛門は雪降りにあつて風邪を引いてしまいました。すぐ治ると思っていたのですが、熱は下がらず、水しかノドを通



らないためどんどん痩せていきました。母と妻は一生懸命介抱するかわら、「咳^{がいき}気の神様」に熱心にお祈りしていました。その願いが届いたのか、松右衛門の風邪は治りましたが、今度は耳が聞こえなくなっていました。そこで、咳^{がいき}気の神様に朝も晩もお参りして、治してくださいよう頼んでいました。そんなある日、夢枕に白い衣を着た神様が出てきて、こう言いました。

「お前たちは熱心に私を信心しておる。願いをきき届けてやろう」

目が覚めた松右衛門は、自分の耳が聞こえていることに大変喜び、神様へのお礼にと小さいお堂を建て、「塞がっていた耳の聞こえをよくする」という意味から、自分の大事な大工道具の錐^{きり}を供えました。いつしか「耳神様」と呼ばれるようになり、現在では、自分の年齢の数の錐をすだれのように編んだものを供えるようになりました。

まちには、
未来に残して
いきたい物語が
たくさんあるよ



※「鬼の首塚」や「耳神社」はP25.名所巡りにも掲載しています。



御嵩町は「環境モデル都市」として、CO₂の大幅な削減を目指すまちです。環境への高い意識を持ち、未来を見据えたまちづくりを進めています。

豊かで清らかな自然のなかで、たくましい子どもを育む教育、安心して暮らせる充実した福祉、高齢者の健康づくりの支援、また産業・商業の振興と雇用の創出など、だれもが前向きで元気に暮らせるための施策を展開しています。

そして、災害時に備えた施設整備・地域防災を支える人材の育成をするなど、地域防災力の向上を推進しています。

まちづくりの原点は、町民の皆さんが「思いつく」ことであり、町のさまざまな資源を生かすのは人と人のつながりです。

町民の一人ひとりが自ら考え行動し、町への力となっていたいただき、皆さんとともに、「魅力ある御嵩町」を未来へ繋いでいきたいと考えています。

御嵩町を みんなと一緒に つくりましょう。

御嵩町長 渡邊公夫



御嵩町にある御嵩町にしかない

みたけの「わ」。

いろんな魅力が生まれ、

次々と巡りながら

どんどん磨かれていく。

こんなまちだから、

きっと未来も「わ」によって

ステキに輝いていることだろう。

